平 成 29 年 度 学 校 自 己 評 価 表（最終評価）

学校運営方針

１ “チーム倉北！”～感動の学校づくり～ を合い言葉に、チーム力で目標を達成する。
２ 「倉吉北高魅力化プロジェクト」にチームで取組み、倉吉北高の魅力化を図る。

今年度の重点目標

１ 結果にこだわる教育
（1）募集定員165名を超える
（2）学力を向上する
（3）進路実績を向上する
（4）部活動実績を向上する

２ 革新的に取り組む教育
（1）教育課程を革新する
（2）授業を革新する
（3）ブランディングを革新する
（4）働き方を革新する

評価基準　A：概ね達成（80%程度以上）　B：変化の兆し（60%程度）　C：まだ不十分（40%程度）　D：方策の見直し（30%以下）

年度当初					評価結果		
評価項目	具体項目	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
結果にこだわる教育	165名を超える	○入学生が165名を超える	○H25　124人 ○H26　 88人 ○H27　142人 ○H28　119人 ○H29　116人	○高校入試を革新する ・中学校長、教諭との意見交換会 ○広報活動を革新する ・HPリニューアル ○募集活動を革新する ・県外生の獲得	○入試問作アドバイザー5人を委嘱し、学習指導要領に準拠した質の高い問題作成ができた。中学校からも好評を得た。 ○HPをリニューアルし記事の更新頻度もアップした。また、公式SNS（Facebook, Twitter）併設した。 ○募集活動は部活動の勧誘に頼るところが多く、あまり成果が上がっていない。	C	○入試改革を継続し、より信頼性を高める。 ○HPの更新頻度を更にアップするとともにSNSの活用法を検討する（生徒、保護者、同窓会との連携など）。 ○春からスカウティングの検討・視察を始めるなど、部活の勧誘力を上げる。調理科、特進、公務員などの特色を生かした募集を行う。
	学力を向上する	○特進コースのSS55以上（進研）が10名以上である ○各自のSSが現状＋5に上がる ○総合・調理のGTZのA～D判定が向上する ○AO・推薦、就職生徒の小論文（作文）・面接の力が着いている ○公務員試験合格ラインに10名が達している	○3特SS50以上4人/47、55以上3人（2月マーク） 2特5人/22、55以上2人（4月スタサポ） 1特13人/41、55以上3人（4月スタサポ） ○D判定の生徒 3年・・・D3-38人、D2-23人、D1-4人（77人中）（4月スタサポ） 2年・・・D3-50人、D2-15人、D1-6人（86人中）（4月スタサポ） 1年・・・D3-36人、D2-14人、D1-7人（78人中）（4月スタサポ） ○特定の教員が指導している ○アドバイザーに面接を依頼している ○公務員希望者が3人である	○特進会議を毎月開催し学力分析と対策を検討する ○マナトレ（基礎基本のふり返り）を活用する ○ハートフルスペース等の支援機関を活用する ○小論文（作文）・面接指導を組織的、計画的に行う ○教育提携している流通経済大学教授の特別講座を企画、実施する（5回）	○GTZの変移（4月基礎力→8月基礎力） 3年・・・D65人→60人　トップがB1からA2と上昇 2年・・・D71人→75人　トップがB2からA3と上昇 1年・・・D60人→59人　トップがB3からB1に2名上昇 ○外部アドバイザーを招いた特進会議を実施することにより、客観的に成績を分析し、進路指導に生かすことができた。 ○朝学習の時間を利用してマナトレに取り組んだので、習慣化できた。朝学習でのマナトレや読書は、生徒が落ち着いて授業に取り組むために有効であった。 ○オープンスクール参加の中学生に対しても、流通経済大学教授による公務員講座実施。	B	○特進会議実施の年計画をたて具体的に取り組む。 ○朝学習でのマナトレ、朝読書は継続して実施。マナトレは今年度実施よりひとつ上のランクを取り組ませる。 ○新年度設立の公務員コースで実施する授業のねらい、具体的取り組みを練る。
	進路実績を向上する	○難関大1名以上、国公立大10名以上合格する ○公務員試験の合格者を増やす ○就職率100%（県内7割以上）である	○国公立大・難関大合格者数 H25…9名　難関大…名古屋大学　工学部 H26…7名　難関大…筑波大学　理工学部 H27…4名　難関大　なし H28…3名　難関大　なし H29…4名　難関大　なし ○公務員合格 H27…3名（自衛隊） H28…3名（自衛隊） H29…3名（鳥取県警1人、自衛隊2名） ○就職率100%だが、県内は6割だった	○特進会議を毎月開催し学力分析と対策を検討する ○個人カルテを作成し適切な進路指導を行う ○特別講座への参加を促し、公務員希望者を増やす ○県内企業の就職先を開拓する	○国公立大学・・・10大学合格（防衛大学校を含む） 難関大学は名古屋大学を受験したが不合格 ○公務員・・・鳥取県警1名、自衛隊1名合格 （4名が公務員にチャレンジ） ○就職・・・100%（うち県内6割）	A	○総合学習の体系化を行い、進路意識のさらなる向上を図る。 ○公務員対策の役割、システムの構築。 ○高大接続のあり方を検討し、職員間で共通理解を図る。 ○特進会議、アドバイザー面談の継続実施。 ○進路希望調査を実施し、早い時期から就職を意識させ、早い段階での取り組みを促す。 ○1、2年とも年明けの2月から就職サポート室を利用し、自己理解を促し、就職活動を早める。
	部活動実績を向上する	○全国大会入賞個人2名。 ○県大会優勝4チーム、個人15名。	○全国大会入賞者数　　○県大会優勝チーム・個人 H24…1名　　H24…3チーム・11名 H25…0名　　H25…5チーム・11名 H26…1名　　H26…7チーム・12名 H27…2名　　H27…5チーム・13名 H28…1名　　H28…2チーム・15名	○外部指導者を委嘱し指導体制を強化する（女バス、陸上） ○県外の優秀な中学生を勧誘する（早期に取り組む） ○男子寮を改修し入寮希望者を増やす ○寮生活を充実させ生徒の意欲を高める	県大会優勝チーム：5団体 ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部（男女）・柔　道　部（男・女） 合　唱　部（中国合唱コンクール銅賞） 個人：13名 全国大会入賞者： 今西　弘成(国体陸上少年A 男子棒高跳　3位 以上の結果となり、おおむね達成と思われる。	A	○県大会、地方予選などでは成績が良いが、全国などの大きな大会では入賞が困難、県全体のレベルアップが望まれるとともに、強豪県への遠征、強豪校との練習試合などを多く取り入れる必要がある。 ○県立高校や他の私学との差別化を図り、本稿独自の取り組みを考え、生徒募集により力を入れ、有能な生徒を増やす。
革新的に取り組む教育	教育課程を革新する	○平成30年度教育課程が完成し本校の新しい教育計画が推進されている	○平成30年度教育課程の大枠は完成しているが、教育課程表が検討課題となっている	○魅力化プロジェクト等で検討する ○総合コースを再編成し、「進学・公務員」「情報ビジネス」「福祉」「スポーツ」の4類型とする	○計画通り平成30年度入学生の教育課程を変更し、総合コースを「進学・公務員」「情報ビジネス」「福祉」「スポーツ」の4類型とすることができた ○平成30年度実施教育課程も確定した	B	○新課程の魅力を高めるために3年間の教育計画を具体化する。 ○「進学・公務員コース」では地域の課題を探究する内容を盛り込む。
	授業を革新する	○全教職員が授業を公開し「見合い、見せ合い、高め合う」倉北文化が定着している ○全教科で授業研究会を開催し教職員の授業力が向上している ○生徒対象の授業アンケートで80%以上が授業に満足している	○昨年の研究テーマは「アクティブラーニングの研究実践」であった ○昨年初めて全教職員の授業公開を実施した ○教科ごとの研究会は教科任せだった ○生徒対象の授業アンケートは実施していない	○研究テーマを「アクティブラーニングとICT教育の充実」とする ○全教職員が授業を公開する ○全教科で授業研究会を開催する ○生徒対象の授業アンケートを実施し分析する（年2回）	○9教室にプロジェクタ設置がなされたことにより、授業でのICT利用頻度が上がった。ICTを利用する公開授業も増えた。 ○常勤講師の公開授業実施率84% ○授業公開後の教科内研究の流れが不鮮明で、実施の徹底ができなかった。	B	○公開授業実施の呼びかけや確認を徹底し、早い時期の全職員実施を目指す。 ○教科内の授業研究や授業アンケートの振り返りについて、体系化し提示する。
	ブランディングを革新する	○広報活動を効果的に行い倉北ブランドの評価が高まっている	○ホームページのアクセス数が180～200／1日程度である ○SNSを活用していない ○他の私立高校に比べてブランド力が高いとは言えない状況である	○ホームページをリニューアルする ○SNSを活用する ○パンフレットをリニューアルする ○ポスターをリニューアルする ○懸垂幕をリニューアルする ○体操服をリニューアルする ○部活顧問をアピールする	○具体策はすべて実施しPRにつとめたが、結果として生徒募集につながっておらず、ブランド力が高まったとは言えない。	B	○引き続きホームページ、フェイスブック等による情報発信に努めるとともに新聞・TV等の報道機関にも情報提供してPRする。 ○中学校を訪問して行う「進路説明会」「入試説明会」や本校で行う「オープンスクール」「学校説明会」の内容を再検討する。 ○県内全域、県外への募集を強化する。
	働き方を革新する	○時間外勤務が減少している ○職員の志が高くやる気に溢れている ○思いやり、助け合う職場となっている	○就業規則を改定し働き方改革に取り組んでいる ○今年度人事考課を導入した ○仕事を一人で抱えず組織的に取り組む考え方が浸透しつつある	○変形労働時間を導入し勤務の効率化を図る ○業務を組織的・効率的に取り組み時間短縮を推進する ○諸会議をネット会議とし効率化を図る ○人事考課を活用し職員の目標を明確にする ○通常業務も緊急対応も「報連相」を徹底し組織的に取り組むようにする	○変形労働時間制を実施した。 ○業務の組織的・効率的な取り組みを進めたが時間短縮につながったか検証できていない。 ○諸会議をPC持ち寄りの会議とし効率化を図ることができた。 ○人事考課を試行し、目標面談及び評価面談を効果的に行うことができた。 ○生徒指導に関する問題など「報連相」が徹底し、迅速な対応ができた。	B	○働き方改革の取り組みを全般的に検証し、より効率的で働きやすい労働環境を目指す。 ○人事考課の検討を進める。